

学会活動報告

2011年度(第89期)7月理事会報告

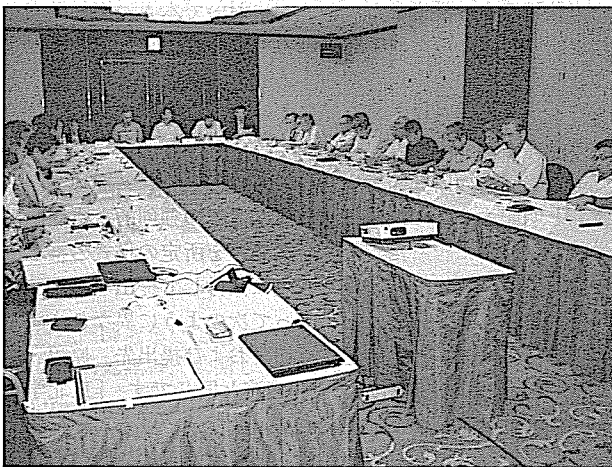
一般社団法人日本機械学会
広報理事 黒坂俊雄、佐藤 勲

7月14日～15日の理事会では、東日本大震災を受けて、日本機械学会としての提言をまとめて行くに向けて、次の活動を実施した。

- (1) 日本機械学会 東日本大震災調査・提言分科会の活動報告
- (2) 日本機械学会東北支部から震災被害・復興状況についての報告
- (3) 仙台火力発電所と女川原子力発電所の見学

7月14日に行われた東日本大震災調査・提言分科会の活動報告では、設置されたWGと主査、被災地企業・大学などへのアンケート調査結果の速報、年次大会における関連企画の動向などについて報告があった。

また、日本機械学会東北支部からの報告では、東北地区の各大学での被害状況の報告があった。被災地域で、震災によって使えなくなった研究機器の寄付要請などの窓口として日本機械学会に期待する声があった。また、今回の震災の経験について、技術的に自然を押さえ込む視点だけでなく自然との共生や歴史を含む総合的な観点から、震災経験を知的な資産として残すべきという議論も聞かれた。



理事会の様子

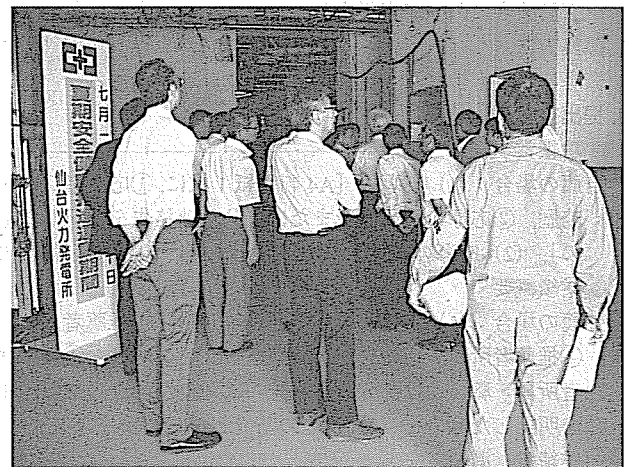
翌7月15日には、東北電力殿のご厚意で、仙台火力発電所と女川原子力発電所の被害と復旧状況を見学した。仙台火力発電所では、最新鋭の高効率ガスタービン・コンバインドサイクル火力発電所の地震と津波による被害と復旧状況を見学した。地震により発電システムは自動停止したが、その後に襲来した約5mの津波により1階部分(下記写真)が水没し、1階に設置してある電気盤等が使用不能となった。その被害状況と復旧状況について、現地にて見学させて頂いた。

一方、女川原子力発電所では、13mの津波に対しても敷地が冠水することはなかった。しかし、海水ポンプ室に設置してある水位計から浸水し、その海水が配管貫通部を通して原子炉補機冷却系熱交換器室等に流入し、B系統の補機冷却水ポンプのモータが使えなくなる(A系統は問題なく安全が確保されており、現地ではA系統に被害が及ばないように懸命の努力が成された)などの被害があった。その被害の状況と復旧の状況について、現地にて見学させて頂いた。

発電設備という重要な社会インフラの安全確保や被害時対応について現地を実際に見て制約条件などを身近に感じることによって、機械技術が関係している様々な側面(知識、設計思想、人材など)の理解を深めることができた。

理事会では、今回の議論と見学で得た理解を踏まえて、東日本大震災を受けて日本機械学会として実施すべき提言の具体化の方向について、引き続き検討して行くこととした。

最後に、復旧作業の大変お忙しい中、見学を受けて入れて頂いた東北電力殿に感謝を申し上げたい。



東北電力(株)仙台火力発電所見学の様子